

展示会でビジネスをしっかりと ～誇り高く前向きに歩いていく～

人口約16万人の宮城県石巻市。3・11大地震のダメージは大きく、約2,500人が死亡、また約2,500人が行方不明になるなど、今回の被災地のなかでも被害が深刻な地域の一つである。その石巻の新沼金物(株)は、大地震の2か月後に東京ビッグサイトで開催された展示会「第2回エコオフィス／エコ工場EXPO」の場で多くの来場者を迎えていた

新たな事業の柱にすべく 環境事業部をスタート

新沼金物の歴史は古く、大正2年(1913年)に創業、昭和36年(1961年)に有限会社新沼商店へ、そして平成10年(1998年)現社名の新沼金物(株)へと改名。すなわち石巻の地で98年もの長きにわたり、活動の歴史を重ねてきている老舗企業である。「わたしは5代目になります。父から交代しまして、3年前に代表になりました。大正2年より以前は馬の蹄屋をなりわいとしていたと聞いています。その後、古物商、つまり鉄くずのリサイクル事業なんです。現代風に言えば環境事業でしょうか、こうしたベースを経て発展してきました、現在の当社の姿に至るように

なっています」と語るのは、社長の新沼利英さん。

現在、同社は大きく以下の3事業を手がけている。1つめは、建設資材や建築資材・土木資材を仕入れて販売する「資材販売事業」。

2つめは、高齢者に向けたバリアフリー専門リフォーム工事(住宅改修工事)を行なう「福祉事業」。ちなみにこの事業は以前、新沼さんが開



創業時(大正2年ごろ)のたたずまい

拓した事業とのこと。

「わたしは独立して、この福祉事業をやっていたわけですが、それなりに成功していました。そして、当社に入社するにあたりまして『であれば新沼金物のもう一つの事業の柱しよう』と、父と話し合っ

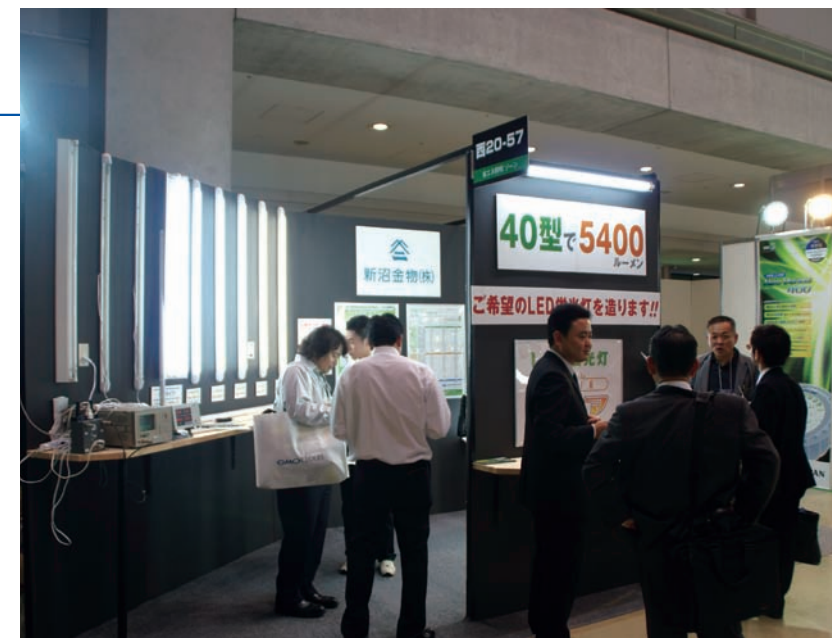
て3つめは、オリジナルブランドのLED蛍光灯製造・販売・設置を行なう「環境事業」だ。

「古物商(リサイクル事業)の歴史もある当社ですが、わたしも環境分野に興味がありまして、中国のLED照明を仕入れて販売しようと計画しました」

しかし、実際に仕入れてみるとノイズやさまざまな不具合があり、売れるものではないと判断したという。そこで、さまざまな勉強を重ねた新沼さんは、同社オリジナルのLEDの製造・販売を決意。結果的に、腕のいい開発者・技術者に恵まれて製品化に成功。そのLED蛍光灯は「クレア」と名づけられ、同時にクレアの浸透を図るべく、昨年4月に「環境事業部」をスタートさせている。

クレアは、従来の蛍光灯にくらべ消費電力約55%削減、CO₂排出量も55%削減、また平均寿命は約5万時間という特長をもつ。

「さらに、LED蛍光灯メーカーとしての顔をもつようになったわけですから、クレア標準仕様以外の各種要望、たとえば明るさもワット数も自由に、さまざまな特別仕様のオーダーにも応えて製品製造も行ないます」(新沼さん)



第2回エコオフィス／エコ工場EXPOの出展面積は18㎡。今回のブースは新沼さんがデザインし、施工も社員が行った

展示会への出展が 売上目標クリアの力に

環境事業部では初年度、クレアの売上げ目標を2,700万円と設定。クレアのお披露目と拡販をめざし、昨年7月に開催された「第1回エコオフィス／エコ工場EXPO」へ初出展した。

結果から言えば、昨年度のクレアの売上げは3,700万円になり、目標を大きく上回ることになった。

「展示会出展だけが、上回った理由とは言いにくいのですが、多くのみなさんにクレアを知ってもらった。チラシは2,000枚以上もなくなりました。また、名刺交換は200社を超え、後日の営業で3社と契約にいたしました」

展示会出展で、クレアの浸透に大きな力を得られることがわかった同社は、2011年5月11日から13日まで東京ビッグサイトで開催される「第2回エコオフィス／エコ工場EXPO」への出展にためらいはなく、早々に出展申込みをすませた。

「今回は西日本の顧客開拓に弾みを付けたい」と、新沼さんはさまざま

な構想を年初から練っていた。

*

そして3月11日、未曾有の地震が石巻を襲う。会社の住所は石巻市門脇字元浦屋敷、海から500メートルほどの位置である。

「会社の目の前に運河があります。その運河の両サイドには防波堤があるのです。津波で海側の防波堤は決壊しましたが、会社側の防波堤は何とか保ってくれました」

しかし夜8時ごろ、脇から水がどんどん流れ込んできて、駐車場が水没した。

「夜中の1時ごろですか、会社のシャッターの前で波が引いてくれました。間一髪で社屋はダメージをまぬがれましたし、在庫も大丈夫でした」

そのあと1週間を費やし、連絡のとれなくなっていた社員の安否を確認した。13人の社員は全員、無事だったそうだが、なかには親御さんを亡くした社員などもいた。

「とてもではないが、展示会どころではありませんでした。実際に事実上、出展はムリなのです。事業を再開したのは4月の上旬です。ですから、いったん出展はやめようと…」